

砂名の ベトナムに乾杯

第1回 ご縁から生まれる、一生モノのテーマ

はじめてホーチミンに来たのは、2014年10月のことだった。

全国商工会連合会の、「地域力活用市場獲得等支援事業共同海外現地進出支援事業」に採択された、【清酒発祥の地「奈良酒」、ベトナム市場調査・展示会および販路開拓】という事業を行うためである。

事業は、私の出身地、奈良の蔵元が醸す「奈良酒」の輸出支援にあたって、一年かけて現地に数回足を運び、市場調査し、試飲会を含む展示会を開催するという内容だった。

プロジェクトメンバーは、奈良県内の蔵元6社、東京日本橋にある「奈良まほろば館」を運営する企業2社、東京の商社1社、そしてこの事業の発案者である私が運営するNPO法人、の10社協働であった。

私自身海外での仕事という、2008年6月、モナコのガルニエ劇場で開催された日本文化イベント「Deep JAPON in MONACO」のスチール撮影以来だった。6年のブランクは大きく、たいへん緊張する一方で、ワクワク感ではち切れそうだった。

2009年に設立したNPO法人LayerBoxでは、奈良の伝統文化や伝統産業を、東京や奈良の大学、高校、専門学校とともに、授業や課外授業の一環として、プロモーションビデオ、3D、CGでコンテンツ制作し、世界に発信する事業に取り組んでいた。

ただ「インターネットを通じて発信するだけで、本当に貢献していると言えるの



2010年。奈良各地のプロモーションビデオを制作した、尚美学園大学(埼玉県)芸術情報学部情報表現学科「定平誠ゼミ」のみなさんと、奈良大仏殿前にて。(撮影:毎日新聞)

か？」という疑念が、いつもつきまとっていた。

日本文化の良さや豊かさを享受した、世界中の人たちの声や喜びを、実際に肌で感じ、ビジネスとしての手ごたえが欲しかった。

まずは何をテーマに取り上げるか？

学生たちとコンテンツ制作に取り組み、奈良が発祥といわれる文化資産の中から、一つに絞り込むことにした。「能楽」「茶道」「奈良筆」「寺社仏閣」と考えていった時、おぼろげに「日本酒=奈良酒」が浮かんだ。

しかし実際には日本酒は取材していないし、コンテンツを作ったわけでもない。

私自身、自他ともに認める「日本酒党」だった。学生時代から三十路までを過ごした京都時代、旨い日本酒を飲み歩いては、同好の仲間たちとちよくちよく、近場や遠出の酒蔵見学に出かけた。毎度の日本酒ブームにもシッカリ乗ってきた。

さらに、2010年奈良で開催された「平


城遷都1300年祭」に、奈良の能、中国の昆曲を、映像とコラボレーションした舞台を開催したおりに、レセプションパーティーに試飲会を出してくれた「奈良県酒造組合」さん。

2013年に立ち上げた女性起業家のコミュニティのオープニングパーティーに、試飲会を出してくれた蔵元「梅乃宿」さん、と、お世話になりっぱなしだった。

おりしも「和食」が「ユネスコ無形文化遺産」に登録され、「日本酒」が世界各国に輸出され、今後の成長が大いに期待されている、そんなタイミングだった。

これからずっと長きにわたって取り組めて、私の嗜好にも合致し、大げさだが、まさに細胞がざわめくとしたら、「日本酒」しかない!と閃いた。

しかし勝手に一人で「これだ!」と思い込んだとしても、何かが動くわけではなかった。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、Standing BAR【日本酒で乾杯!】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人LayerBoxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。